

人間行動研究領域 履修例

学生の専攻分野・ 出身背景等(例)	総合科学部出身者で行動科学を専 攻した学生	教育系、文系学部出身者でストレス に関して複合的な視点から研究し た学生	企業または法人で情報関係の業務 に従事している社会人
研究テーマ(例)	社会的排斥に伴う感情状態の認知 情報処理研究	ストレスに対する適応と対処に関す る行動科学的研究	情報化社会のもたらす対人関係の 閉鎖性と不適応に関する研究
履修科目(例)	必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(人間行動研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 認知行動論 環境行動論 時間行動論 社会行動論 【他領域科目】 (4) 先端的神経細胞科学 社会階層論 自由選択科目 (4単位) 適応行動論 神経情報制御論	必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(人間行動研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 適応行動論 社会行動論 環境行動論 認知行動論 【他領域科目】 (4) 社会動態論 社会階層論 自由選択科目 (4単位) 認知言語論 時間行動論	必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(人間行動研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 社会行動論 適応行動論 環境行動論 認知行動論 【他領域科目】 (4) 情報システム論 計算科学情報環境論 自由選択科目 (4単位) 社会動態論 認知言語論
教育目標(例)	高次脳機能に関する生理学的・生 物学的知識をベースに、行動科学 的手法を用いて特定の事象に関す る認知情報処理を研究できる人材 を養成する。脳内の認知情報処理 を探求するための研究法や解析法 という基礎的技術の習得に加え、社 会的事象やそれに伴う感情状態に についても扱うことができる応用力と 研究のオリジナリティーを伸ばす。	自然環境・生活環境との共存関係 をめざして、行動科学的視点から人 間の認知過程や適応過程、社会的 相互過程についての理解を深め、 人間行動の分析や予測のできる人 材を養成する。人間と環境に関する さまざまな問題について、学部で学 んだ専門性と行動科学的視点の両 方からアプローチすることができる 能力を涵養する。	現代社会の抱えるさまざまな問題 について、行動科学的観点からア プローチできる知識と研究法を習得 する。この基礎的技術をもとに社会 病理の解明と個人レベルから組織 レベルまでの対応策について研究 のできる人材を育成する。行動科学 的視点からの問題抽出能力と問題 解決能力を涵養する。
授与学位	修士(学術)	修士(学術)	修士(学術)
養成する修了生像 (例)	● 大学・研究機関の研究者・教育 者を目指し、博士課程後期へ進学 する者 ● 民間のシンクタンクや研究所で、 認知行動科学に携わる研究者 ● 認知科学に関するサイエンスライ ター	● 大学・研究機関の研究者・教育 者を目指し、博士課程後期へ進学 する者 ● 民間のシンクタンクや研究所でス トレス科学に携わる研究者 ● 心身科学に関するサイエンスライ ター	● 民間のシンクタンクや研究所で、 情報化社会の問題に関わる研究者 ● マスコミ、出版関係で科学的記事 や特集等の企画ができる者